

セグメント別営業概況

航空・宇宙部門



交通・輸送



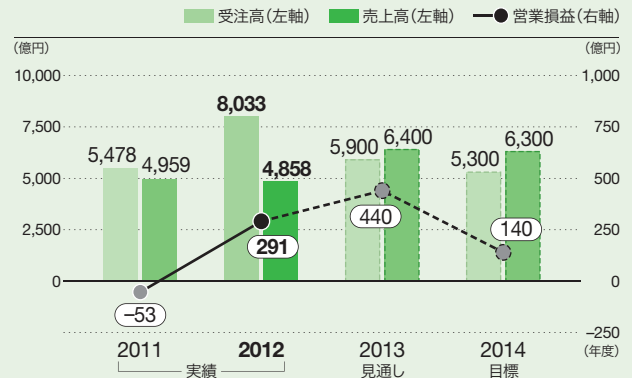
防衛・宇宙

主力製品：民間航空機、防衛航空機、航空機用エンジン、宇宙機器など

基本戦略

- 民間機のサプライチェーン強化、ものづくり改革により収益力を向上
- 統合防衛システム構想を軸にした陸・海・空一体提案
- H-IIA/Bロケット連続打上げ成功を継続し、次期基幹ロケット開発等で競争力を強化

今後の見通しと目標



2012年度の概況と2013年度の見通し

民間航空機市場では、世界的な航空旅客輸送量の増大やLCC(ローコストキャリア)の躍進に加え、大手航空会社による燃費効率の良い機種への代替受注も好調に推移しており、航空機メーカーは多くの受注残を抱えています。また、防衛関係は緊迫化する安全保障環境を背景に防衛予算が2013年度に11年ぶりの増加に転じたものの、厳しい財政状況のもと大幅な拡大は難しいと予想しています。

こうした市場環境のなか、MRJ(三菱リージョナルジェット)を初めとする民間航空機需要に加え、防衛関係の需要も増加したことで、連結受注高は前年度を上回る8,033億円となりました。

連結売上高は、民間航空機・宇宙関係の納入が増加しましたが、防衛関係の納入が減少し、前年度を下回る4,858億円とな

りました。民間航空機の引渡機数は、ボーイング777が前年度を7機上回る90機、ボーイング787が前年度を25機上回る52機となりました。また、営業利益は、民間航空機を中心に採算改善が進んだことで前年度を大幅に上回る291億円となり、黒字転換を達成しました。

2013年度は、連結受注高5,900億円、連結売上高6,400億円、営業利益440億円を計画しています。

中長期の成長に向けた取り組み

民間航空機事業は、増産に向けて生産体制の整備を進めており、グローバルなサプライチェーン体制の構築と、ものづくり改革による収益力向上に努めています。また、次世代リージョナルジェット機MRJの開発に注力するとともに、受注拡大と量

▼ ボーイング787旅客機

▲ 宇宙ステーション補給機 (HTV)「こうのとり」
(提供: JAXA/NASA)

▼ PW1200Gエンジン



航空宇宙事業本部長
鯨井 洋一



SWOT分析表

<ul style="list-style-type: none"> □ (民間機) グローバルな調達体制 □ (防衛) 統合防衛システム提案力 □ (宇宙) JAXAとのロケット共同開発 	<p>S 強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ (民間機) リージョナル市場における競争の激化 □ (宇宙) 世界水準より高い打上げコスト 	<p>W 弱み</p>
<ul style="list-style-type: none"> □ (民間機) 今後20年間で約22,000機の新規需要 □ (防衛) 緊迫化する安全保障環境 □ (宇宙) 新興国の衛星打上げニーズ増加 	<p>O 機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ (防衛) 国防予算の縮小 □ (宇宙) 衛星打上げサービスが世界で活性化 	<p>T 脅威</p>

主要プロジェクト

発表時期	納入時期	プロジェクト
2012年12月	—	ボーイング787型機向け複合材主翼100号機目を出荷
2012年12月	—	米国スカイウェスト社からMRJ100機受注、さらに、オプション100機追加に関する正式契約を締結
2012年 9月	—	H-IIBロケットの打上げ輸送サービス事業を開始
2012年 8月	—	MRJ搭載のP&W社ジェットエンジン「PW1200G」事業に参画
2012年 7月	—	H-IIBロケット3号機による宇宙ステーション補給機「こうのとり」3号機(HTV3)の打上げ成功

産体制の確立を目指します。

防衛事業は、当社が得意とする戦闘機やヘリコプタ、各種誘導弾、弾道ミサイル防衛などで国の要請に応えるとともに、当社が保有する陸・海・空の防衛事業の連携による、統合防衛システムを提案していきます。

宇宙事業では、H-IIA/Bロケットの連続打上げ成功の継続に注力していくとともに、次期基幹ロケット開発などへの対応を強化していくことで、打上げ実績の認知度を高め、市場ニーズに適した打上げ輸送サービスを提供していきます。

以上を基本方針として、2014年度は連結受注高5,300億円、連結売上高6,300億円、営業利益140億円を見込んでいます。

T O P I C S

H-IIBロケット打上げ輸送サービスを開始

H-IIBロケット3号機までの連続打上げ成功を受け、当社は、4号機以降のH-IIBロケットの打上げ輸送サービス事業を開始することで独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)と合意し、宇宙ステーション補給機「こうのとり」4号機(HTV4)を2013年8月4日に打上げました。H-IIAロケットに比べて質量が2倍の大型人工衛星にも対応可能となったことから、国内外の商業衛星をはじめとする幅広い打上げニーズに応えることにより、世界市場の積極開拓を目指していきます。

また、H-IIA/Bロケットの次を担う新型の次期基幹ロケットの開発が始まります。当社はこれからも国の方針に基づき開発の推進に貢献していきます。



▲ MRJ(Mitsubishi Regional Jet) (提供:三菱航空機)

